成城学園らしさこそキャリア形成
――「キャリア形成論Ⅰ」を担当して――

勝又　あずさ

1．はじめに

経済のグローバル化、技術の進化の加速化、少子高齢化を受け、終身雇用制度や年功序列を基盤とする日本的雇用の在りかたは変化した。文科省、厚生労働省、経済産業省が就業力強化施策を打ち出し、各教育機関をはじめ、企業でもキャリア教育を推進している。個々が自ら、生き方や働き方を考える時代となっている。「そもそもなぜ私は働くのか？」、「将来どのように仕事をしたいか？」…。　自分のキャリアの在りかたを考える。わくわくしながら自分の可能性を探る。もやもやしている不安や課題を抽出し、意見を交換しながら気づく。これが今年度の「キャリア形成論Ⅰ」の趣旨である。

初回の授業、全員と“おはよう！”を交わした。“毎回知らない人同士で座ってね”の言葉に学生たちは戸惑いながらも、細長い504教室の前8列に全員が集まった。早く来た学生が率先して準備を手伝ってくれる。レクチャーでは全員がスクリーンに注目する。グループワークでは1つのテーマに心を開いて意見を交わす。この一体感。そして開放的な空間は企業研修では味わったことがなかった。成城学園の、創立者澤柳政太郎先生の教育理念・文化。そして、成城大学に集まった学生が創りあげている風土…。授業の最終日、学生から、「このクラス、この授業、って成城っぽいね」という言葉をもらった。「キャリア形成論Ⅰ」を担当して解った『成城学園らしさこそキャリア形成』を報告する。互いの個性を尊重しあう学生の人間力を感じていただきたい。そして、将来の社会を担う学生の支援に、この論文が参考になれば幸いである。

2．科目概要

2-1　成城大学におけるキャリア支援体制と「キャリア形成論Ⅰ」の位置付け

成城大学のキャリア支援は、キャリア支援部主催の講座・ガイダンス・個別キャリア相談、学生主体のキャリアプログラム「MAP」、授業科目では全学共通教育科目として「キャリア形成論」がⅠからⅣまで設けられている。「キャリア形成論」（Ⅰ～Ⅳ）は、経済学部・文芸学部・法学部（社会イノベーション学部を除く全学部）1～4年生対象。半期2単位。各2クラス構成。キャリア形成論Ⅰでは「自分のキャリアをデザインする」、Ⅱは「自分らしさを引きだし活用する」（Ⅰ・Ⅱ共に2クラス同じ内容・ワーク中心 勝又が担当）。森隆史先生によるⅢとⅣは「社会を知る」「多様なキャリアを理解する」をテーマに、ゲストスピーカーとの対談とグループディスカッションで構成されている。

2-2　キャリア形成論Ⅰ　科目概要

目的：

自分の仕事人生の在りかたと将来の可能性を追究

仕事人生をどのように歩んでいこうか？　鳥の目（広い視点）で、虫の目（立ち位置を細かい視点）で、魚の目（流れを読み時間軸に沿って短期・中期・長期的）で視る。

全13回のステップ：

1.「自分の今」	自分らしさ（価値観や性格タイプ）を知る。
2.「自分のこれまで」	生まれてから今までの人生を振り返る。強みの発揮パターンを分析。
3.「社会の中の自分」	自分をとりまく社会の現状、社会における自分の役割、働く目的を整理。
4.「自分の将来」	夢、ビジョンを描き、目標を設定し、行動計画を立てコ

ミットメントする。

到達レベル：

・様々なツールを活用し、メンバーと意見を交わしながら**自信**を持つ。
・社会の現実と現状を把握し**向上心**を持つ。
・将来をイメージしながら、今だからこそできることに**意欲**を持つ。
・周囲に宣言をすることで見守られ、行動に**責任**を持ち、前進していく。

毎回（90 分間）の授業のながれ：

1. 前回のおさらい　前回の概要と学生の意見をシェア
2. 今回のテーマの共有認識　趣旨（科目全体の中での位置づけ・目的）を確認
3. 本題　小講義　個人ワーク　ペア・グループワーク　解説
4. ふりかえり・まとめ　個人フィードバック　全体シェア

2-3　グランドルール

1. 参加者 1 人 1 人は大切なパートナーです。お互いの尊厳を大切にしましょう。
2. 極力 否定語は肯定語に置き換えて表現してみて下さい。
3. 本来、失敗はありません。あるのは、学びです。
4. 考えたこと、感じたこと、やりたいことを、まず表現してみましょう。
5. 疑問も大切にしましょう。
6. お互いのオープンなシェアリング（共有化）が新しい観方を拡げます。
7. 授業終了後、知ったプライバシー情報は守りましょう。
8. みんなの意見を大事にする場をつくっていきましょう。

2-4 「キャリア形成論Ｉ」の受講生の属性

金曜 2 限クラス：履修登録 92 名
（実際の出席は約 75 名　1 年生が 45%　経済学部が 60%）

金曜4限クラス：履修登録82名

（実際の出席は約70名　1年生が65%　文芸学部が50%）

2-5　講師として心得ていること

経済学やヨーロッパ文化など各学部の専門分野の知識・能力は学生の方が私より優れている。私から学生へ伝えられることは、キャリア形成に関する知識と経験。これを等身大で伝えた。今回の授業は次の3つの視点、1. 企業出身（自分自身が会社員・人材育成の業務経験）、2. ワーキングマザー、3. 成城学園との関わり（聴講生・成城合唱団団員・保護者として）から構成した。

3．本論：授業（①～⑬）の内容

3-1　①オリエンテーション

授業の趣旨：

「キャリア」の共有認識　　ラポール形成

授業内容：

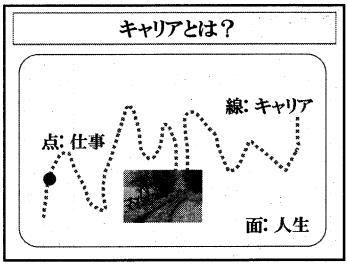
・この科目のスタンスと全体の流れ　・成績評価基準　・キャリアとは？

・ワーク「自己紹介」：自分を表すキーワードを考える。このキーワードをもとにペアで自己紹介。　ペアを再編成して計3回。

＊授業では毎回、ワークに合わせて小講義を設けた。本論文ではワークを中心に、ワークと直接関係のある講義のみを記す。

＊「キャリア」の定義：

仕事人生。自分らしい生き方。仕事のそれぞれが点、点を結ぶ線がキャリア、そのベースとなる面が人生。その線はくねくね曲がっていたり、デコボコしていたり、細い太い、人それぞれ。予定通りにはいかない。優劣・正解・必勝法もない。決めつけずに、3次元の視点で自分らしく色づけをしていく。



キャリアとは？

学生のコメント：

・自分のキーワードを何度も人に伝えていくうちにそれが自分にとって大切な要素であることに気づいた。

・メンバーのみんなは自律をしている。自分を表すたとえをきちんと持っていて、それを解りやすく伝えることができていた。 人はみかけだけでなく奥のほうにも魅力がある。

・社会に出ると学力以上に大切なものがたくさんある。

考察等：

・グランドルールは全員が理解し、継続して守ってくれている。

・ワークをスタートした瞬間、笑顔とともに教室が沸いた。この“ざわざわ”に、教室の清掃を担当してくれる職員さんが、ドアの外から「よいスタートがきれたね」と言い戻っていった。学生たちをいつも見守っている。

3-2　②エニアグラム

授業の趣旨：

自分らしさを探り、自尊心を高める。多様性に気づき、他人の行動や考え方を受け容れ理解する。

授業内容：

・ワーク「エニアグラム」:タイプチェック（個人）→講師解説→タイプ同士シェア→全体共有。

＊「エニアグラム」：9つの性格タイプ論。各タイプには優劣はない。あたっている・いないではない。強みを活かし弱みを強みに変える。自分らしさを活かすヒントにする。他人の行動意図を受け入れる。（参考：日本エニアグラム学会）

学生のコメント：

・自分のタイプでのマイナス面は、見方を変えればプラス面になる。それは他人にも同じことが言える。

・もしかしたら、自分が考えている「自分らしさ」と、他人から見た「あなたらしさ」は違うかもしれない。

・みんな違ってみんないい。だからこそ、社会が成り立つし、もっと狭くいうと学校、クラス、友人関係が成り立つのだと思った。人は人と影響をしあって成長していく。

・自分らしさというものは、自分だけでなく他人の協力を経て生み出される。自分を受け容れてくれる家族・友人にあらためて感謝をしたい。

考察等：

・タイプ診断アセスメント（TA、MBTI、DiSC、等）から、その場でチェックできる、90分で実施できる、タイプの数が少なすぎず多すぎず、グループシェアもできるものとして「エニアグラム」を選んだ。学生のタイプで多かったのが7(熱中する人*)・9（平和をもたらす人）。少なかったのはタイプ8（挑戦する人）で2つのクラスともに各1名しかいなかった。*エニアグラム各タイプのニックネーム

3-3 ③ライフライン

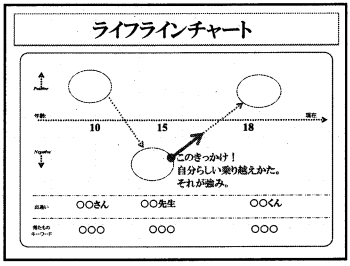
授業の趣旨：

キャリアを展望していく上でまずこれまでの自分と向き合う。

授業内容：

ワーク「ライフライン」：

横軸が年齢軸。縦軸の上がポジティブ、下がネガティブエリア。出来事と出逢った人を時間軸に沿って記し、線で結ぶ。その時の気持ちとカーブを分析。自分にとってあのときのできごとはどのような意味を持つのか？　書き出す作業により冷静且つ客観的に自分を見る。ペアで共有することにより、歩んできた道、乗り越え方、ものごとの捉えかたの違いを知る。個々作成の前に私のライフラインを紹介。



ライフラインチャート

学生のコメント：

・自分の人生を振り返るのは年寄りのやることだと思っていたが、未来を見据えるためには必要なこと。「振り返る」だけでなく、過去を客観視し考察することで、より深く自分を知ることができた。

・とてもネガティブなことがあって、世間的にもネガティブなことだが、今思うと、そのできごとが自分にとっては最大のポジティブだった。

・自分の人生を見直していくのは意外と楽しい作業だった。なぜなら、自分が成し遂げたこと、体験したこと、それはまるでゲームのようだったからである。まだ18年しか生きていない。これからが本番だ！

・マイナスからプラスの状況に変わるとき、共通して新しい人との出逢いがあることに気づいた。

・自分の今までの人生を、気持ちの変化を軸に見返した。過去を思い返す時のほとんどはその出来事を軸に年表をみているかのように思い返すが、気持ちを軸に

することで、自分の考え方の変化やきっかけがわかり、どのような気持ちの時に自分が生まれ変わっていくのかを知った。
・すごく苦しくて悩んでいた時。それをどうやって乗り越えてきたかを整理し、自分自身に自信をもった。そして、今の自分があるのは、支えてくれた友人、家族のおかげ。あらためて感謝をしている。人はひとりでは生きていけない。
・自分は枠をつくりがちな人であった気がする。何をするにも「無理」だとか「面倒」という言葉を使っていたけれど、そんな自分が高校で出逢った先生は、そういう逃げの言葉を許さない人だった。その時から変わった気がするし、そういう逃げの言葉を使わないと、自分がどんどん前に進んでいける。枠を壊していくという自分の中での動きをつくることはとても大きい。

考察等：
・ライフラインは記号で記すなど自分に解ればOK。人に見せなくてもよい。ペアワークでは話せる範囲で無理はしないことを徹底した。

3-4　④モチベーションの源

授業の趣旨：
これまでの出逢い・経験から得た「自分のモチベーションの源」を探る。

授業内容：
・ワーク「モチベーションの源」：前回記したライフラインチャートから、今の自分にプラスになっている過去の経験・行動をひとつ選ぶ。その時の自分の気持ち、行動のきっかけ、それにより得たもの、自分ならではの意欲の素を分析。その後、自分のモチベーションニックネームをペアと一緒に考える。

モチベーションニックネームの一例：
・「成長チルドレン」：　夢を持ちながら、それはまだスタートしたばかり。これから成長していこうという意味。

・「ランダムな羅針盤」：　向く方向は不規則だが、向いてしまえば一直線である。
・「スジが多い肉」：　たたけばたたくほど良くなる。
・「ひよこ」：　殻を割って勇気を出して一歩踏み出す。尊敬する人（にわとり）について学んだことを自分流にアレンジして成長。

学生のコメント：

・普段の自分を一変させるような強力な出来事ほど、そのモチベーションは持続する。
・大切なのは乗り越えたことだけでなく、そのために自分が何をして何を感じたかだ。
・ライフラインを見返したとき、「これがあるから生きていける」という今と未来の期待ではなく、悩んだ時、苦しい時に、「でも自分はこういう経験を乗り越えてきたから今回も大丈夫だ。」という過去からのプレゼントと捉えている。
・頭で考えていたことも、他人に伝えることで新しい観方ができる。ペアの人は正反対のタイプだった。人は人と語ることで刺激が生まれる。刺激が生まれることで価値観が拡がる。
・感謝の気持ちを言葉にすることで、周りが違うように見えた瞬間があった。

3-5　⑤価値観（人生観・仕事観）

授業の趣旨：

仕事人生を軸に自分の価値観を探る。

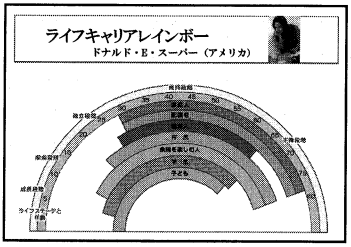
授業内容：

・ワーク「自分の存在」：大学卒業時に自分をどんな存在として残したいか？
全員の回答を冊子にして配布
・ワーク「価値観ワーク」：どんな仕事をしたいか？、どんなふうに働き、どんな生活を送りたいか？ 50 項目から自分に該当する項目をすべて選択後、3 つに絞り込み、順位をつける。選択理由とそのこだわり、具体的な職業を記す。ペア

で共有。

・小講義：「ライフキャリアレインボー理論」　諸先輩の生き方（事例紹介）

＊「ライフキャリアレインボー理論」（ドナルド・E・スーパー）：キャリアは年齢ごとの役割の組み合わせである。役割とは、子ども、学生、職業人、配偶者、家庭人、親、余暇人、市民等。これを虹に例えて説明。



ライフキャリアレインボー

学生のコメント：

・人生の役割の中で、自分は家庭人になるのが楽しみ。（男性）

・ペアワークでは、初めて話す人には（友人より）新鮮な気持ちで夢を語れた。

・ペアは、自分にはない価値観に理由をもって努力していた。それを語る活き活きとした表情を見ていると、その価値は素晴らしいものだと自分も感じてきた。

考察等：

・何を生きがいに働くか？　仕事観は様々。自分の存在をどのように残したいか（人生観）も、何を大切にしたいか（価値観）も様々。お互いが刺激を受けた。

3-6　⑥したいこと・できること・すべきこと

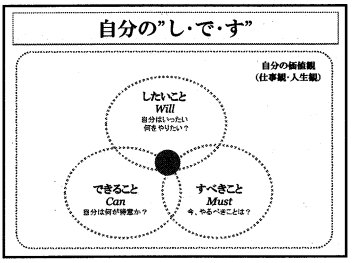
授業の趣旨：

普段の生活と“実行すること”を見直し、大学生活を筋肉質にする。

授業内容：

・ワーク「自分の“し・で・す”」：

フォーマットを用いて自分のしたいこと・できること・すべきことを洗い出す。ペアで共有。



したいこと・できること・すべきことの記入枠を一部重ね合わせるような輪

学生のコメント：

・入学前にやりたかったこと、高い志を持っていたことを思い出した。思い返すことで、またモチベーションがあがった。定期的にこの“し・で・す”を書き出せば、ぼんやりした生活を送らずに充実できる。

・したくない、できない、とマイナスなイメージを持って拒否をするのは、選択肢を減らしたり、隠れたセレンディピティを見逃すことになるのかも。

考察等：

・年齢を重ねれば、立場上、したいことよりも、できること・すべきことの項目が多くなる。将来再度記し、記入の違いを見てほしい。

・“し・で・す”の3つが重なる部分に、親孝行と記した学生が数人いた。

3-7　⑦自分をとりまく社会と「職業」を探る　何のために働くか

授業の趣旨：

仕事をする目的と、「職」にフォーカスした社会の現状を探る。

授業内容：

・そもそも、何のために働くのか？ それにより何を得たいか？ そのために何をするか？ 働く意味を考える。

・やりたい職種は？ 就きたい業種は？　自分の職業観を考える。

・小講義：日本型雇用システム、会社と個人の関係、職種・業種、企業理念・就職活動等。

学生のコメント：

・漠然と考えていた将来の仕事像に関して、現実社会の側面を突き付けられた気がした。

・今までの授業で一番自分の将来を考えた。バイトをしたこともない自分にとって、働くことについて考えるのは大変だった。でも、だからこそ考える機会が与えられてよかった。今のうちから就職に備えていこうと思った。（1年生）

・働くことはあたりまえと思っていた。「働く意味」について問われたらこんなにも答えづらいものなのか。答えを探し続けたい。でも正解も間違いもないものだと思う。

・私の親は医療関係の仕事をしている。毎日毎日疲れた顔をし、病院用の携帯を常備し夜中でも駆け回る。お洒落をする時間や心が安らぐ時間がないなんて一番イヤな仕事だと思っていた。だが最近になって「人のために働くこと」はとてつもなく難しく、そして素晴らしいと感じはじめた。そんな風になりたいと思う。

考察等：

・これまでの「自分探し」から、今回は現実社会がテーマ。そのギャップに難しかったというコメントが1/5を占めた。「何のために働くか？」は追究し続けたいテーマである。

・雇用体系をはじめ企業社会の現状については3,4年生対象に別途機会を設けたい。

3-8　⑧社会における自分の役割　　職業興味を探る

授業の趣旨：

社会人に求められる「力」を整理する。

興味関心から職業を6つの分野で考える。

授業内容：

・小講義：経済産業省、厚生労働省、文科省が提示する社会人に求められる力、成城学園の教育理念との関係、大学の活動で鍛えられる社会人基礎力。

・ケーススタディ：「与えられた仕事を成し遂げるためにすべきこと」広告代理店のYさんはラーメンプロジェクトのメンバー。あなたがYさんだったらこんな時どう行動する？をテーマに議論。解説ではこのケースと社会人基礎力を関連づけた。

・ワーク「職業選択」：代表的な60の職種から、自分が今とにかくやってみたい仕事を選び、「職業選択理論」を用いて自分の職業興味を分析。ペアで共有。

＊**「職業選択理論」**（ジョン・L・ホランド）：職業環境と人の興味分野は、それぞれ次の6つのタイプに分けられる。両者のタイプがマッチしていれば自分の職業に満足と安定を感じやすい。6つのタイプとは、現実的（R）、研究的（I）、芸術的（A）、社会的（S）、企業的（E）、慣習的（C）。

＊学生が就きたい職業（傾向）

税理士　公認会計士　ファイナンシャルプランナー　教員・教育者　保育士　警察官　銀行員　鉄道員　客室乗務員　アナウンサー　小説家　芸人・俳優　商品企画業務　企業の経理・総務業務　放送局　マスコミ業界　広告業界　芸術関連業界　ホテル業界　旅行業界　アパレル業界　ブライダル業界　起業家　等

学生のコメント：

・社会人基礎力とは、社会人になるから必要なのではなく、人間として生活していくのに必要な力。経験したり、学んだり、遊んだりして構築していくものだと思う。挨拶、周りへの配慮など。あたりまえのことが大切。バイトでも社会人基礎力を意識しよう。

・ケーススタディでは自分ひとりでは思いつかなかったことをペアワークで補いあった。考え方は人それぞれ。その違いが楽しかった。そんな中で「組織というものは大きな武器になってくれる」と感じた。

・ホランドの６つのタイプは社会の中でどれも欠かすことができない。しかし自分ひとりで６つすべてのタイプを補えない。つまり仕事は周りの協力なしではできない。仕事は多くの人のキャリアで構成されている。

・創造力と発想力を活かした仕事がしたいと思っていたが、逆の発想で、就いた仕事で創造力と発想力を生かせばよいと思った。例えば理想と違う職に就いた時、どのようにすれば自分を出せるか？ この職を楽しめるか？ そういったことを考えるのも創造。発想。自分がやりたい職業が天職なのでなく、自分が自分を生かせる仕事が天職。職種にこだわらないことで 新しい自分も見えてくるかもしれない。

考察等：

・職業選択理論では、とにかくなりたい、やってみたい、という視点から職業を観ることで、自分には無理だと諦めていた職種も候補に入れ、そこから傾向を探ることで、新たな気づきも見えてきた。

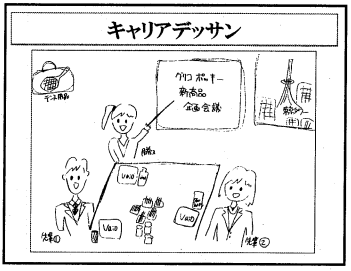
3-9　⑨キャリアコラージュ

授業の趣旨：

「将来こんな仕事をしてみたい」「こんな風になれたらいいな」といった自己イメージを描き、可能性を拡げる。

授業内容：

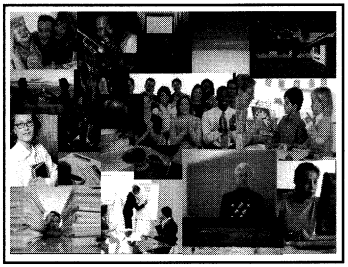
・ワーク「キャリアデッサン」：社会人２年目の６月の金曜日 17：00、自分はどこで、どんな仕事を誰とどのようにやっている？その時の気分は？ …。その場面をペアに口頭で伝え、イメージして描いてもらう。リクエスト＆質問もOK ！



キャリアデッサン

・ワーク「ドリームリスト」：“…たらいいな”、“…なりたい”と思っている日常の小さなことから大きな夢まで100個書き出す。（自分主義・自己満足でもOK）ペアで共有。ペアとの会話から新たにでてきたドリームもリストに追加。お互いに可能性を拡げていく。

・宿題「キャリアコラージュ」：自分の将来をイメージする素材（絵・写真・言葉）を1枚の紙にパッチワークする。



キャリアコラージュ

学生のコメント：

・授業で絵を描くなんて中学ぶりだった。しかも、人のノートに！ 正直、苦手でやりたくなかったが、相手の話から自分が想像して描いた絵と相手のイメージが重なった時、楽しかった。描くためには、その人の話を聴き、意見を交換することが大切。

・キャリアデッサンやドリームリストを行なう時、ふと頭に浮かんだのは、小さい時からずっと思い続けていたのに今は頭の片隅にしまっていた夢だった。自分がなりたいものはやっぱりこれだと再確認できた。実現は難しくても一度きりの人生だから、納得いくまで頑張ろうと思う。

・自分がやりたいと思っても心が勝手に制限していることがたくさんあった。それは時間がなかったり、いろいろ理由があるにしても、やった方がよいことばかり。こうやって思うままに自分の欲求を書いていくのは、自分が知らない自分を知ることができて楽しかった！これからも続けよう。

・ドリームリストで描いた自分像は、母、祖母、叔母を統合した女性像だった。身近な人をモデルにその理想像を描くとまだまだ増やせそう。これから出逢う人にもその要素が隠れているであろう。出逢いも楽しみ。

・いつも、自分には夢がないとか、将来なんかどうでもいいって言っていたけど、

ふと考えると、あっこんなにしたいことがあるんだって、自分の中に埋もれていた気持ちを掘り起こせた。書き出して机の上にでも貼っておけば、毎日ワクワクできそう、達成したら一つ消して1つ書き加えていけば、いくらでもやる気が出そう。

・ドリームリストがいくらあっても書ききれないような人間であれ！

考察等：

・キャリアデッサンでは、自分が話す言葉から、相手がイメージして描く、その一生懸命な姿を見ながら自分の将来を想い浮かべる、その作業自体にも意味がある。

・ドリームリストでは、イメージしやすいように事前にサンプルを見せた。「運転手つきの車で通勤」や「海外に別荘を持ち余暇を過ごす」といった例も示したが、現実的な項目が比較的多かった。

3-10　⑩キャリアビジョン

授業の趣旨：

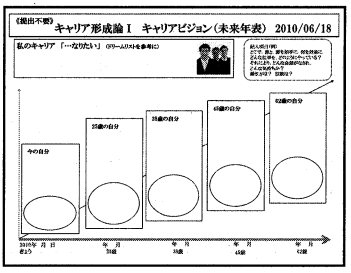
自分の一生、どうなっていたいか？　成功イメージを描く。

授業内容：

・ワーク「アクションリスト」：前回のドリームリストを実現するための行動と、自分が周囲に対してどんな貢献ができるかも一緒に書き出す。ドリームリストとこのアクションリストの関係性を探る。ペアで共有。

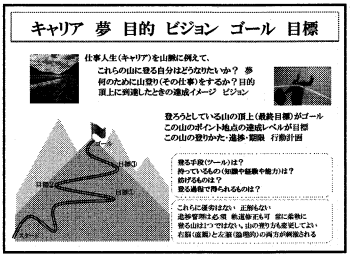
・ワーク「未来年表」：自分の一生、どうなっていたいか？ 25、35、45、62歳の場面を予想する。ペアで共有

・女性のキャリア：独身時代、出産復帰後、子どもの自立後、各々の平日の動きを観る。



未来年表

・小講義：言葉の意味（夢、目的、ゴール、ビジョン、目標）



夢・目的・ビジョン・ゴール・目標の図

学生のコメント：

・「諦めなければ夢は叶う」というけれど、これは「夢のために行動することを諦めなければ叶う」ということ。

・アクションリストには当たり前のことが多く書かれていた。この当たり前のことがしっかりできないとドリームリストが実現できない。

・アクションを継続することにより、思っていたものとは違う新しいドリームも見つかる。最初のとてつもなく大きいドリームを叶えられなくても、それに近いドリームを叶えることができるかもしれない。

・キャリアビジョンとは、未来の自分について考えるテーマだが、実は今の自分がとても大きく関わっている。もっと言うと、今の自分があるのは、過去の行動の結果。この因果関係すべてがキャリアビジョンに反映される。

・未来年表では、何十年も先までを想像した。それは、夢に日付を入れることであり、夢の実現を自分に引き寄せる作業。

・ずっと 18 歳でいたいと思っていたが、18 歳のときより楽しいと感じるおばさんになりたい。

考察等：

・62 歳？そんな先はわからない！という声も多かった。20 歳の今、老後をイメージすること自体に意味がある。もちろん年表通りには進まない。

・言葉の意味（夢、目的、ゴール、ビジョン、目標）は意味調べを前回の宿題にし、この回で共有した。

・アクションリストに「働いて親に学費を返す」と記した学生が数人いた。

3-11　⑪目標設定

授業の趣旨：

ビジョンをもとに、自分が目指すことと、1年後に達成しうる目標を設定する。

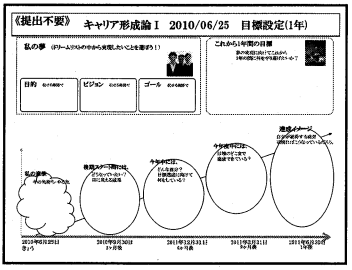
授業内容：

・ワーク「偶然」:「今までにおきた心に残る予想外の出来事は？、それが自分の人生にどのように影響したか？」、「今、自分におきてほしい偶然は何？おこってほしいことが実際におきる、その可能性を高めるために何をするか？」を考え、ペアで共有。

・小講義：「計画的偶発性理論」

＊**「計画的偶発性理論」**（ジョン・D・クルンボルツ）：ビジョンを持ち、日常の生活の中で何らかのアクションを起こし続けていれば、自分にとって好ましい偶然をひきよせることができる。つまり偶然は自分の行動次第で必然化できる。だから先を悩んだり、心配をするよりも、自分の動機や価値観を満たすようなアクションをとにかく起こそう！そうすればきっと夢も実現する。

・ワーク「目標設定」：ドリームリストをもとに達成したい目標を1つ設定する。この先1年間を3ヶ月ごと区切り、小さな目標を記す。グループ（4人）で共有。



目標設定

学生のコメント：

・「偶然は必然」という言葉は今までにも何回か聞いたことがあって、なにそのくさい言葉と思っていたけれど、たしかに凄い人たち（スポーツ選手や著名人）は、偶然をただ待っているわけではなく、自分の力で偶然をひきよせている。その

ためには、多くの努力が必要。「運も実力のうち」という言葉は理にかなっていると思った。

・計画的に偶然をつかむなんて、恋愛の手法みたい。 偶然は偶然ではなく、自ら動くことが招いた必然である。

・自分の欠点は行動力がないことだと思っていたが、よく考えると「～だったらどうしよう」と先のことを考えすぎていた。勇気を出して行動に移さないと損するのは結局自分だし、もったいない。「無理」という言葉を使わないようにしたい。

・将来、企業で商品企画の仕事をしたいと考えているので、今、私は企画のアルバイトしたい！ということをみんなに話し、知り合いの知り合いの人を紹介してもらおうとしている。

・たまたま成城大学に入れたおかげで、大好きなサークルのみんなと出逢えて、毎日が楽しく過ごせているし、生まれて初めて、学校に来るのが楽しみになっている。

・「知は力なり」と「知らぬが仏」は一見正反対の言葉のようだが、実は繋がりがある。

・昔、先生が、「低い山を登るより、高い山を登るほうが見晴らしがいいでしょ。なら、今、頑張りなさい。」と言ってくれたことを思い出した。

・目の前にある小さなことから、どんどんクリアしていこう。1年後の目標は、各々が自分の目標を記したわけで、それを叶えるための努力をした者勝ち。そのためにはどんな小さなことでも面倒がらずにコツコツとクリアしていくことが達成に繋がると信じている。

考察等：

・計画的偶発性理論について、数名から、“偶然は必然でないから偶然だ”という意見（疑問）がでた。偶然を“たまたま”に置き換えて、「たまたまおこった出来事も、実はこれまでの自分の行動と繋がっているのでは？　だからこそ行動することに意味がある」という表現で補足した。

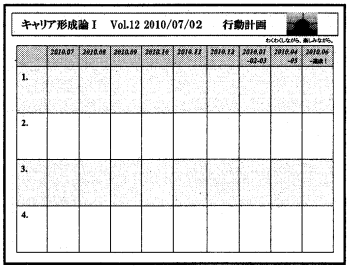
3-12　⑫行動計画

授業の趣旨：

実行することを時間軸に沿って整理する。

授業内容：

・ワーク「行動計画」：目標達成に向けて具体的に何をするか、1年間の計画をガントチャートに記す。グループ（4人）で共有。目標設定→計画→実行のメリットを考える。



行動計画

・ワーク「自分への手紙」：1年後の自分、社会人2年目への自分に手紙を書く。感じたことをペアで共有。ペアの1年後にメッセージを贈る。各々の手紙に封(糊づけ）をし、時が来たら読むように保管する。

学生のコメント：

・書いたとおりにすらすらいくのが人生ではない。やっぱり壁にぶち当たると思う。しかしその壁をこわして乗り越えれば 計画以上の何か素晴らしいものを手にできる気がする。

・教育論「エミール」（ルソー著）の「他人と比べずに、1年前の自分と比べれば、嫉妬心や虚栄心は生まれないはずである」という言葉を思い出した。

・やりたいことがたくさんで整理するのも一苦労。いつもなら 計画すら面倒くさくて立てなかったし、立てても計画倒れになってばっかりだった。でもグループで共有したことで自分自身に宣言をし いつまでも逃げてないで、成功したいと思えた。行動計画って楽しいものだったんだ！

・グループワークは楽しい。みんながそれぞれの意見を言えるから。気付けなかったことに気付けて、それを議題に深めていける。この経験を将来に役立てたい。

・将来の自分への手紙に、「もし今の夢が叶っていなくても 絶対にあきらめないでほしい」と書いた。これを見ればまた頑張れる。

考察等：

・目標や計画のテーマは、バイトやダイエットでも、小さなことでも OK とした。ここではその達成感を体得してもらいたい。

・計画を具体化することが難しい。漠然とした目標を、“…するためには？”、“例えば？”、“どのように？”、といったセルフコーチングをしながら「チャンクダウン」する。“そうすることにより何が得られるか？”といった「チャンクアップ」、この行ったり来たりを繰り返してもらった。

・立てた計画をどのように実行しているか？　キャンパスで会った時などに進捗を共有するよう提案した。

3-13　⑬コミットメント

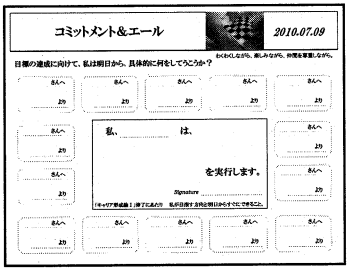
授業の趣旨：

「キャリア形成論Ⅰ」の総まとめ。立てた計画をもとに明日から実践することを周囲にコミットする。

授業内容：

・これまでのおさらい　・キャリアデザインノートの今後の活用法

・ワーク「コミットメント＆エール」：　明日から実行することを仲間に宣言し、互いにエールを贈りあう。



コミットメント＆エール

学生のコメント：

・人が目指していることに、簡単に“頑張れ”なんて言えないから、一生懸命理解して、“こういうこと言えたらいいな”と理想の言葉を考え、普段なら恥ずかしくて隠してしまう言葉を相手に贈った。

・コミットメントはその言葉のとおり、「約束」することだが、それを完全に自力でやるのは難しい。今までワークを共にした仲間たちにエールをもらい、初めてスタートラインに立てた。たった1～2行のメッセージからも大きなやる気をもらった。

学生のコメント（最終回としてこれまでをふりかえり）：

・自分と他人との壁を、みんなが取り払ってしまうと、こんなにも一体となれるのか！と驚いた。自分からも周りにこういう空気を伝染させていって、みんなで頑張る大学生活にしたい。

・人の価値は、大学で決まらない。能力で決まらない、肩書きで決まらない。人には、人とのつながり、自分自身とのつながりによって生まれる大切なものがある。

・大学が好きになった。こんなに素晴らしい人たちばかりですこし焦った。うかうかしていたらおいていかれると思った。

・この授業は成城らしいと思った。みんなで自分の生き方・考え方を共有する。そして、その「個性」と「自由」には責任をともなう。

・人生はそんなに長いものではない。だからこそ、生きた証を残したいと思った。自分の将来は自分で決めるというがこれほど大きな仕事はないと思った。

・この授業でたくさんの人に自分の夢を聴いてもらった。そして、いろんな言葉をもらった。大人に話すと現実的な視点の答えしか返ってこない。これはこれで大切だけれど、19歳の自分、19歳のひとりの人間に現実味のある夢を見ろ、なんて無理だよ。てか、その考えをぶち壊したい。そんな自分の考えを押してくれた人がたくさんいる。感謝だ。

・毎回毎回、学んだことをふとしたときに思い出す。電車の中や、シャワーのときや、料理をしているときなど。違う大学の友達に学んだことを伝えたりもして

いる。

・たまたま会った元カレに、変ったね！と言われて嬉しかった。最近は人見知りもあまりなくなったし、常に前向きに強く考えられるようになった。逃げてばかりの自分にいい刺激になって、「キャリア」をこれからいかに形成していくか、どういう風に振り返るか、よいきっかけになった。

・他の友だちと歩いているときに、この授業のメンバーと挨拶をすると、私の友だちが「今の誰？」と訊ねる。「授業が一緒の子なの」と答えると、「授業が一緒ってだけで挨拶をするの？ふーん！」と言う。友だちが少し羨ましそうにしているのを見て、私は嬉しくなる。

・同年代の仲間で話し合うことで、時には焦りと劣等感を感じることもあった。以前の私ならそこで落ち込んで終わりだったけれど、この授業で蓄積された言葉や人との出逢いを通して、「自分も頑張ろう」という、恐れずに物事と向き合う力がついた。

・正直言って、僕は最初、この授業があまり好きでなかった。毎回毎回、見ず知らずの人と話して、ワークをするなど、どの授業より苦痛だった。それは、高校、予備校、大学は座って人の話を聞いていればいい環境、ここ数年をその環境で過ごしてきた僕にとっては余計にそう感じた。しかし、回を重ねるごとに何だか楽しくなってきた。慣れてきたこのあたりで前期終了なので、悲しくなってきた。座って話さえ聞いていればよいなんてことは社会に出たら絶対にありえない。そのための授業だったのかと気付いた今日。時、既に遅し。

考察等：

・コミットメントは、まず私が学生へコミットメントした。テーマは具体的でなくてもよいし自分の信条や想いでも構わない旨を伝え、自分のスタンスとして継続しうることを自由にコミットメントしてもらった。

・エールの贈りあいでは、20分間で20人以上からのメッセージがシートの裏面まで記された。時間の制限でシート表面（14人分）の枠が埋まらない人には、既に埋まった人たちがメッセージを書きに集まっていった。

・メッセージはスペース的にほんの一言しか記せないが、見せてもらうと、どの

メッセージもその人らしい、温かく深みのある内容だった。

補足：13 回の授業の中で印象に残ったテーマ　(144 名の回答を集計)

1 位：行動計画　2 位：価値観・仕事観・人生観　3 位：エニアグラム　4 位：未来年表　4 位：したいこと・できること・すべきこと　6 位：計画的偶発性理論　6 位：ドリームリスト　6 位：ライフライン

補足：WebClass の活用について

Web 上での学生とのコミュニケーション、「WebClass」を活用した。この授業のルール・成績評価基準、参考書籍の閲覧や、授業で使用したスライドも毎回終了後にアップロードした。履修者のアクセスログは成績評価にも反映した。

WebClass のアクセス数：(2010/4/1-7/31)

2 限クラス　アクセス者 67 名 /75 名中
平均アクセス数　4.84 回　最高アクセス者：47 回

4 限クラス　アクセス者 53 名 /70 名中
平均アクセス数　3.64 回　最高アクセス者：21 回

4．本論：学生は「キャリア」をどのように考えているか？

「キャリア」をどのように考えているか？、以下に学生の回答文の一部を記す。(全員分を紹介したいところだが)。特に 4-2「計画的偶発性理論」はこの科目の軸となる考え方で、私自身が一番力を入れた分、学生の反応も大きかった。

4-1　「キャリア」とは？　：学生が記した解説文より抜粋

「人生という旅」：　仕事だけに偏らずに家庭、趣味、出逢い、人生におけるすべての事象を、自分を軸に捉えたときに生まれるもの。成功失敗、勝ち負け、優劣、ゴールもない。この旅の主人公は自分自身であるため、悪天候も自分の捉え方次

第で幸せへのチャンスと変わる。

「人生の軌跡であり未来図」：　一生という限りのある時間の中で「私」という個人が、何をどれだけどのように他者や社会に影響を与え、それをこの世の中に残したかという軌跡。もちろん良し悪しや優劣はない。失敗は挽回もでき、臨機応変に軌道修正もできる。今、この一瞬も形成されている。将来に向かって自分を奮い立たせるもの。

「山登り」：　努力をすればするほど、登れる山は大きく高い。山頂に向かってくじけそうになったり努力したりする過程がその人のキャリア。個人が持つ夢それぞれが山。他人と高さを比べるのではなく、頂上に向かうその過程で自分と向きあうことがキャリア形成。

「挑戦したことの連なり」：　就職して仕事をすることだけでなく、今の自分は勉強や遊び、部活や人脈つくりも。赤ちゃんのうちは泣くことが仕事であり、老後は子供や孫に面倒をみてもらいながら自分の経験を語ることが役割。

「プラス」：　キャリアは2つのプラスから成り立つ。1つはプラス思考＝ポジティブ。もう1つは足し算＝経験の積み重ね。

4-2　「計画的偶発性理論」：学生が記した解釈文より抜粋

・「結果はどうであれ、**まずはやってみなよ！**」と背中を押してくれる理論。悩んでいる時、勇気が出ないとき、自分の自信のなさからくる思いこみや過度の心配をすべて取り去ってくれるもの。

・偶然は必然である。常に考えを持ち身構えている人は、この偶然の兆候を見つけ出しチャンスに変える。この見つけ出す力、**チャンスに変える力**こそ、この理論の核である。

・目的のために何かをするのは大事だが、仮に目的のない**無駄に思われる行動にも意味**があって、それが次第に偶然という名の結果として帰ってくる。

・何か不安な時、自分にツキがないなと思って**へこんでいる時こそアクション**を起こし、偶然やチャンスを自分の元へもってくる、という考えは、これからの生き方を変えてしまいそうだ。

・あのときあの場にいなかったら始まってもいなかったことが多くある。夢を決めて1本に頑張ることも大事だが、偶然におきた出逢いや事柄が**将来へ繋がっている**のも確か。

・何か調べたいことがあり、それについていろいろ調べようと動き出すと、調べたいことに**関連する情報が偶然入ってきたり**、関係する人に出逢えたりする。

・私は日常生活の中で計画を立てることが多いが、そこには必ず、我慢や束縛が伴っていた。しかし、この理論に出逢ってからは、計画を否定的に考えず、**ゆったりとしたおおらかな心持ちで計画**を立て、行動を起こそうと思えるようになった。

・就職活動中、とにかく動くことを大事にした。興味がなくてもとりあえず行ってみて、そしてそこで見知らぬ人と話をし新たな発見をした。**諦めずに何度も挑戦**し、とにかく動くことによって、気づかないうちにゴールにたどり着いていることもある。つまり、偶然の積み重ねで必然が訪れ、ゴールする。

4-3　コミュニケーションの在りかた　：学生の意見より抜粋

・授業を進めていく過程で一番大切なことは、**人の話を真剣に聴く**こと。

・自分のための授業だけでなく、**相手のための授業**でもある。

・この人と話をしたいと思いペアになった。本当にエネルギーのある人で、話し方や話す内容がすごくためになった。このような人に出逢うためには、**自分から向かっていく**ということを学んだ。授業でできたことは普段もできるはずなので、地道にチャレンジしていく。

・年下からアドバイスをもらい、自分の**考えが柔軟**になった気がする。

・自分も相手も、長所と短所も持っているが、それは悪いことではない。相手の悪い部分を探すのではなく、**よい部分をみつけよう**とする癖が身についた。

・コミュニケーション能力も大切だと思うが、コミュニケーションをとろうとする姿勢が何よりも大切。すべてをオープンにする必要はないが両者が片手ずつでも出しあわなければ手をつなぐことができない。こうした**歩み寄り**から、友情、信頼、愛情が生まれてくる。

・連帯感を感じることができた。誰ひとり、仲間はずれや、いい加減な気持ち、人をからかう気持ちを持たなかったからだ。**恥ずかしさを捨て**て話をしてみれば周囲の人は親身になって聴いてくれる。

・私は相手の会話の中の単語に反応してすぐに質問をしてしまう癖があるので、「話したい！」と思っている相手の言いたいことを**まず一通り聴く**。その大切さを知った。

・人と関わることはそんなに悪いことではないということ。今まで、極力人と関わらないようにと思ってきたが、一期一会、**人との出逢いを大切に**することもいいなと思った。毎回違う人と隣になる中で、1回だけ話して終わってしまった人もいた。以前ならどうでもよいやと思っていたけれど、いろいろな人と関わるうちに、1回話しただけの人に対して、もう少し話せたら…、残念だな、と思うようになった。

・**成城大学が好きになった**。みんなそれぞれに夢を持っていて、頑張ろうとしていて、キラキラしていた。自分とは違う価値観も素敵だと思った。世の中にはキラキラした人がこんなにたくさんいるんだ。

・ここで出逢った仲間とは、大学の中の他の場所でも挨拶や会話を交わしたりすることが多くあり、そのたびにこの授業で語り合った言葉が頭の中で蘇り、あの時あの授業で私は、彼、彼女にこう言ったなと思いだし、忘れかけていた目標や思いを再び**日常の中で意識**できるようになる。

・何よりも**思いやり**だと思う。仲間たちに対するものであり、先生に対するものでもあり、自分に対するものでもある。各々が思いやりを持つことで、教室内の空気が自然と温かくなり、ワークをしやすい環境が整っていき、授業を終えるごとにメンバーと教室が馴染んでいくのを感じた。

4-4　キャリアを考えながら　：学生の気づき　コメント文より抜粋

・将来何をやりたいかを考えるのは重要で難しい。「今すぐに結論をださなくてもよい。**追究しつづける**ことにも意味がある」という言葉で前向きになった。

・自分の思い描いているものだけが方法ではない。自分の中だけで答えを出してしまわず、**人の言葉に耳を聴ける余裕**をもっていたい。せっかく 自分が望めば色々な人に出逢う環境にいるのに、もったいないと思った。

・「あなたはしっかりしている」と周りから言われるのが嫌だったが、今ではそれを**認めて自信に変えて**、みんなのお助けマンになっている。

・昔から負けず嫌いで、自分の意見はトコトン押し通してきた。ペアワークをして、3年生や4年生に頭から否定され、対抗したが、やはり、自分の考えが少しズレていることに気づかされた。そこから私は、**人生の選択肢が増えた**ように思う。幅が広がったというか。人生という名の旅路で行き止まったとき、前に進むための道を見つけられる気がする。素直な自分を得た。

・「目標を変えることは悪いことではない、むしろあっていい」ということ。ずっと昔から憧れていた目標に関して疑問を持ちはじめていた。でもなぜかその夢に縛られてしまう、そんなとき、キャリア形成や目標設定、ゴールは、**柔軟であっていい**のだ、とポンと肩を叩かれた気がした。そして、もっとこういうことを学びたい、これを人に教えてあげたい、と思った。キャリア形成のプロセスは一人ひとりにとっていろいろな意味を持つと思う。勇気づけられたり、焦ったり、迷ったり。しかしそれで当然だし、それが良いのだと思う。**相手を知り、自分の考えを知ってもらう**ことで違った何かが見えることがある。

4-5　これからのキャリア形成　：学生の想い　コメント文より抜粋

・自分の人生の主役は自分。自分の心がけひとつで人生は大きく変えられると思った。人はお金のためだけでなく、**なりたい自分になる**ために働く。そう考えれば、働くということがとても魅力的に思える。

・今までは、何となく、“ありがちな企業”のどこかに就職できればいいやと適当に考えていたけど、考えが大きく変わった。私はまだ1年生で時間がある。これからどんどん**新しいことにチャレンジ**していって、自分を磨いていって、私の"自分らしさ"は何なのかも見つけていきたい。とにかく今は積極的にいろんな団体に関わっていきたい。

・「自分らしく」歩んでいきたい。私は成功主義で行動的な方ではあるが、いつも突っ走れる訳ではなく、その時々の自分に悩んだり立ち止まってしまったりする。突き進むことばかりがよいのではなく、**悩んだり立ち止まったり振り返ったり**することもキャリアにおいては大切。そこからまた歩み出せばよい。目標達成、夢の実現のために頑張り続けることはもちろん大切だけど、感情の赴くままに動くことも私には必要。頑張って、立ち止まって、また歩いて、また自分でよく考えて、そして、また歩み出す、この繰り返しでよいと思う。

・「あのとき本気で挑んでいれば今、こんなところにいないのに」などの後悔をしたくない。正解がないことなので大変だが、その時、その時なりに、努力して、苦労して、自分なりの正解を掴みたいと思う。「**いけるときに絶対にいっておけ**」が僕の好きな言葉なので、臆することなく、チャレンジしていきたい。

・僕はキャリアを歩んでいく上で、**人と人を繋げるような存在**になりたい。繋げるというのは、心と心だったり、言葉と言葉だったり、商品と消費者だったり、特に何かという訳ではない、授業では、人と人が協力すれば、こんなにも力を発揮するのかと驚いた。だから僕は、自分自身の力を発揮していきながら、周りの人々の力も引き出していけるような、そんな存在として自分をこの世に残していきたい。そのためには自分のことを知ってもらいながら、相手のことも理解でき

るように一つ一つのコミュニケーションを大切にしていきたい。

5．総論

5-1　私と「キャリア形成論Ⅰ」との出逢い

この科目を担わせてもらったきっかけは「MAP」の中学生版。成城学園中学校に通っている長男が、大学が主催するこのプログラムに参加した。「MAP」に私が興味を持ち、そこからのご縁で昨年度のキャリア形成論Ⅳではゲスト講師として授業をさせてもらった。保護者として成城学園の教育理念に共鳴し、成城合唱団をはじめ諸先輩方から成城学園の魅力を感じる中、自分は何の役に立てるか？、経験をどのように活かせるか？　を追究し続けている。私自身の人生の節目となった今年3月。会社員生活（ソニー株式会社にて24年間）からの独立は自然だった。キャリア形成ってそんなものだと思う。今は学生と交流を図りながら授業を通して多くのことを学ばせてもらっている。

5-2　キャリア形成論Ⅰの課題と今後に向けて

やり方（就職活動ノウハウ等）よりも在りかた（働く本質）を大事にする。建物で言えば、外観やインテリアデザイン（機能＝やり方）は表面的に大切だが、土台（基礎＝在りかた）がしっかりしていないと地震（予期せぬ揺さぶり）がきたとき崩れてしまう。その**「在りかたを形成する場の提供と動機づけ」**がこの科目の役割。学生が主体的に展開しその中から気づく。このスタンスを今後も大切にしていきたい。

授業の中で、私自身が予定通りにできなかった時は、その分、学生をコントロールできなかったということであり、学生の伸びしろ部分として学生自身が必要なポイントを見出し吸収消化していた。さらに、私が狙った到達レベルとは違うベクトルでその授業の成果が見えた。企業研修（特に研修会社が委託されて行なう研修）では、目的と習得すべき要素に沿って、時間配分や進行マニュアルが用意

されている。学生たちが創りあげる授業の価値を体得させてもらった。

後期に展開するキャリア形成論Ⅱは、より実践的な内容で、ゲーム感覚のワークも取り入れる。そのゲームを通して、自分に意味のある気づきを自分自身で選択し得ていく。定員は50名。キャリア形成論Ⅰの履修者が4/5を占める。新しく加わるメンバーとの調和を図りながら発展させていく。

キャリア理論については、さらに時間をかけて、理論を実際に体験しながら体験的に理論を深めたい。職業知識、社会の現実・現状など、取り上げたい項目も数えきれない。詰め込みすぎずに、焦らず、欲張らず、期待をしすぎずに進めていきたい。

全学共通教育科目として、学年、学部、が違う学生が集まり、多様な価値観・考え方で意見を交わす。だからこそ得られる気づきがあった。併せて、学年ごとのキャリア教育も必要。高校から大学に進んだばかりの1年生、就職活動中の3年生、それぞれの意識と必要性に応じた展開も求められる。

キャリア形成論（Ⅰ～Ⅳ）では今年度も一連のストーリーのもと展開をしている。今後さらに充実させていくために、「キャリア」をキーワードにコンテンツをマッピングし、各科目へ割り当てていくのもよいと思う。キャリア支援部と連携を計り、エンロールメントと言われるトータル的な支援やワールドカフェ等の手法も取り入れながら一貫性を意識したい。

5-3　他の科目との連関

なぜ働くのか？、なぜ今勉強するか？、そのために今何をすべきか？ …。授業で行なった「目標設定」には、「フランス語の習得」「中国語の弁論大会」「簿記3級取得」など、語学や法律をはじめ他科目の目標が多く記されていた。就職に向けて、「だからこそ、今、学ぶ場がここにある」という習得意識向上にも繋げられたと思う。

前期に私は、キャリア形成論ⅢとⅣ（森隆史先生）と「成城学園を知る」（青柳恵介先生）を聴講させていただいた。学生と同じように実際に授業を受け、グループディスカッションにも加わった。私の科目を履修している学生ともここでは同じ立場で意見を交わした。授業を受けることで、学生の想いや現状を知り、そして森先生の考え方との共通点、青柳先生から学ぶ成城学園らしさ（歴史・教育理念）を通して、キャリア形成におけるスタンスを見出した。そのスタンスとは、**「自分の感性を信じる。堂々と表現する。他人の個性を受容する。共に育み合う。」**

今後さらに、他の科目、ゼミ、部活、バイトなど、キャリア形成と繋がる様々な取り組みと連関できればと願う。

5-4　社会で活きる学生の力

成城大学の学生を周囲が評価した一例に、「賢く熱心。コミュニケーションスキルも高く、大学生活を楽しむ。バランスがとれている反面、積極性・主体性に物足りない。」と記されていた。私は前向きに捉えている。例えば、「お坊ちゃん」「お嬢さん」と言われているのは、経済面だけでなく、愛情に恵まれながら成長する心豊かな環境が用意されている。人を、人の想いを大切にする風土、そして、状況に応じて前に踏み出す力、チームをリードするスキルも十分に備えていると私は思う。実際にこの授業のペア・グループワークでは、3年生は率先して1、2年生にアドバイスとリードをしていた。1年生も異なった考えや意見を堂々と主張していた。人が困っていればすぐに助けに行く。他人のミスは肯定的に見守り補っている。磨けばさらに輝くと確信し学生に期待をしている。

6. おわりに

学生からもらうコメントは、授業の回数を重ねる毎に深みを増した。学生自身、今まだ消化しきれないむずむず感もあると思う。それを大切に、そして後になって、「そうか、そういうことだったんだ！」といえる種を今のうちにたくさん蒔いておいてほしい。

履修の動機が、“なんだか面白そう”とか、“出席すれば単位が取れそう”、でも構わない。むしろ、授業を通して仲間から刺激を受け、気づき、目覚め、成長していく。そんな出逢いと将来の「必然」をキャリア形成論Ｉは提供したい。

最後に、授業を進めていくにあたりアドバイスをくださった教務部、キャリア支援部、青柳恵介先生、森隆史先生、そして、一緒に授業をつくってきた学生みなさんに心より感謝をいたします。

キャリア形成論Ｉ　２限クラスメンバー　2010 年 7 月 16 日撮影

キャリア形成論Ｉ　４限クラスメンバー　2010 年 7 月 16 日撮影

2010 年 9 月 30 日擱筆